

ほっかいっぱいみさきっ子

御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和2年度 10月号



さあ、夢の坂へ

◆5年生 観音山自然教室を終えて

左の写真の「夢の坂」は、観音山少年自然の家へ向かう山道です。観音山自然教室に参加した5年生は、天候に恵まれ、テレビもゲームもない3日間を充実して過ごすことができました。

初日の山頂登山では、自分も苦しい中でも、仲間のことを必死で励ましたり、荷物を持ってあげたりと、やさしさいっぱい姿に、引率職員が感動したそうです。5年生の子どもたちなら、きっとそうでしょう。

二日目は、自分たちの計画で、丸一日を過ごす「冒険ラリー」。大人に頼ることができない状況下で、多くの支え合い・挑戦・自立がありました。また、子どもたちが撮影した写真には、大自然の風景や不思議なキノコの数々、ヒガンバナや可憐な花々、中には、ヘビの姿をとらえた写真も……。大自然を満喫した子どもたちの様子や、発見時の表情までも思い浮かぶような写真ばかりでした。



4班が撮影した山の風景

◆3つの「ありがとう」

帰校式で私は、3つの「ありがとう」を伝えました。まずは、参加した子が無事に（お疲れモードでしたが）戻ってきてくれたことに「ありがとう」。そして、家族も含めた体調確認や活動準備を支えてくださった保護者のみなさまへの「ありがとう」。帰校式では、バスから降りる子どもたちに、温かく声をかけてくださっていました。わが子に限らず、どの子にも声をかけてくださる温かさがありました。最後は、手前味噌ですが引率職員への「ありがとう」です。



◆「この学年の子たちにとっては、1泊では、あまり意味がなかったと思います。」

2泊3日の自然教室は、子どもたち以上に引率教員にも、なかなか過酷なスケジュールです。

安全確保はもちろんのこと、夜の見守り、服薬の確認、その上今年にはコロナ対応まで加わりました。帰校した引率職員のあまりのお疲れぶりに、直後の反省会で「近隣は1泊2日だよ。2泊3日について、見直す時期が来ているんじゃない？」と言った私に、宮部主任が答えたのが冒頭のセリフです。というのも、やさしくて、協力し合え、規範意識の高い子どもたちゆえに、初日はすべてに大人を頼り、確認をしながら進めることが多かったそうです。それが、二日目、三日目と、みるみるたくましく、自分たちで考え、行動することが増えていき、表情も変わっていったようです。

げっそりと疲れて果てていても…それでも2泊必要だったと言い切る職員を誇りに思いました。

観音山少年自然の家では、施設使用制限や衝立設置をはじめとして、さまざまなコロナ感染防止対策がとられていました。その万全の対策のおかげで、今回の自然教室が実施できました。

やさしい5年生に、たくましさと集団力をつけてくれた三日間。

保護者のみなさまをはじめ、関係のみなさまのご尽力に改めて感謝申し上げます。

(校長 仁平美和子)

